

# Turkish March

繰り返が多いのでいかに変化をつけるかが大切です。

鍵は「長調」と「短調」を演じ分け  
 なめらかに歌うところと、スタッカートで歯切れよくするところなど、  
 上手にコントラストを取ることです。

アラ・トゥルカトルコ軍楽隊風に  
 アレグレット やや速く  
 (Allegroよりは遅い)

右手はモーツァルトらしい軽やかな動きを見せます。  
 「指を下げる」「打鍵」(だけん)だけでなく、  
 ここでは「指を上げる」「離鍵」(りけん)も意識しましょう!  
 素早く指を上げることで、鍵盤を押している時間が短くなり、  
 モーツァルトらしい軽やかなタッチで弾けるようになります。  
 (スタッカートまでしなくても大丈夫です。)

装飾音はゆっくり入れると  
 全体のテンポが崩れるので  
 素早く入れましょう!  
 弾き方のコツは  
 指で「ソ」「ラ」「シ」を1音1音弾くのではなく  
 「ソラシ」に「123」の指をセットして  
 3の方へクルッと手首を回すことです。

Wolfgang Amadeus Mozart

## Alla Turca Allegretto

**A**

2回目(リピート時)は  
 少し弱めに入って  
 変化をつけることもできます。

*p* 短調

左手がトルコ軍楽隊の太鼓をイメージさせます。  
 ▲のアクセント位置がそのリズムです。  
 その他の音は弱め・軽めに弾くと生き生きします。

3度は指先が寝ていると同時に鳴らせないことがあるので、  
 指を立てて(目的は鍵盤にあたる指先の感覚を鋭く感じることです)弾きましょう。

長調 *mp* 明るい響き(広がる)

1回目 2回目

このように、この曲では短いフレーズの繰り返しが多く出てきます。  
 1回目を大きく・2回目を小さくするのが一般的ですが  
 毎回同じでは飽きてしまいます。  
 演奏者が自由に工夫して聴き手を引きつけましょう!

短調 暗いまたは  
 落ち着いた響き(おさまる)

1回目 2回目

### トリルの入れ方

難しければ (シドシ) (ラシ)  
 (シドシ) (ドシラシ)  
 入れば (ドシドシ) (ドシラシ)

*cresc.* *fz* *p*

ド シ ラ

メロディーがド・シ・ラと  
 段々小さくおさまるようにすると  
 良いと思います。